

- 問1 2016年時点の世界の二酸化炭素排出量の統計において、中国、アメリカ、インド、ロシア、日本などが主要な排出国として大きな割合を占めている状況がある。このような状況を背景に、1997年に日本で開催された会議で採択された内容について述べた文として、正しいものはどれか。
(2020年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---------------------------------------|
| 1. 砂漠化の進行を食い止めるため、発展途上国への資金援助を主要国に義務づけた。 | 2. 酸性雨による森林被害を防ぐため、硫黄酸化物の排出を禁止する国際法を制定した。 | 3. 地球温暖化の原因となる物質の排出削減を目指し、国際的な協力体制を構築した。 | 4. 海洋汚染を防ぐため、廃棄物の海洋投棄を全面的に禁止する宣言を行った。 |
|--|---|--|---------------------------------------|
- 問2 東京二〇二〇大会では、全国の自治体から提供された木材を選手村の施設に使用し、大会終了後にそれらを再び各地域へ戻して公共施設などで再利用する取り組みが行われました。このような「資源を循環させる取り組み」が目指している目的として、最も適切な説明はどれですか。
(2023年 山梨県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 一度使用した資源はすべて廃棄し、常に新しい素材を導入することで利便性を高めること | 2. 自然界の浄化能力を無視してでも、都市部での建設コストを最小限に抑えること | 3. 大量生産と大量消費をさらに促進し、工業化による経済成長を最優先すること | 4. 新たな資源の消費を抑制し、廃棄物を減らすことで地球環境への負荷を軽減すること |
|---|---|--|---|
- 問3 日本の空港建設において、内陸部ではなく海上という立地を選択する背景にある「騒音対策」の仕組みとして、適切な説明はどれですか。
(2017年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 埋め立て地を巨大な防音壁として機能させ、地下に設けた滑走路から航空機を離着陸させる仕組み。 | 2. 滑走路を海面に近づけることで、航空機のエンジン音が海水に吸収され、周囲に音が響かなくなる仕組み。 | 3. 海上は風が強いので、航空機のエンジン音を風下へ押し流し、都市部へ音が届かないようにする仕組み。 | 4. 空港を市街地から遠ざけ、飛行経路が住宅地の上空を通らないようにすることで、騒音の被害を物理的に回避する仕組み。 |
|--|---|--|--|
- 問4 わが国の二酸化炭素排出量の推移において、産業部門の排出量が1990年の634（百万t-CO2）から2020年の538まで減少した一方で、家庭部門が129から167へと増加した要因として最も適切な説明はどれか。
(2022年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 重化学工業から知識集約型産業へ転換したことで産業部門は増加したが、徹底した節電意識の定着により家庭部門は減少したため。 | 2. 企業の排出削減努力や省エネ技術の導入が進んだ一方、家庭での電化製品の利用や自家用車の普及などエネルギー消費が増大したため。 | 3. 再生可能エネルギーの導入により産業部門の排出が減った一方、少子高齢化の影響で家庭ごとの電力消費効率が悪化したため。 | 4. 工場の海外移転が加速して産業部門の排出が止まった一方、都市部への人口集中により家庭からのゴミの焼却量が増えたため。 |
|--|--|--|--|
- 問5 現代の日本では、エネルギー革命以降の森林利用の変化に対応し、森林の健全な育成を目的とした管理が行われています。密集した樹木の一部を計画的に切り取って日当たりを良くし、残った木の成長を促す作業を何と言いますか。また、この作業で発生した木材は、近年ではチップなどに加工され、再生可能エネルギーの燃料などにも活用されています。
(2024年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 下刈り | 2. 主伐 | 3. 植林 | 4. 間伐 |
|--------|-------|-------|-------|
- 問6 1967年に制定された公害対策基本法を発展的に解消し、1993年に制定された、地球環境問題を含めた環境対策を総合的に推進するための法律はどれですか。
(2019年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|----------|-----------------|----------|
| 1. 自然環境保全法 | 2. 環境保全法 | 3. 循環型社会形成推進基本法 | 4. 環境基本法 |
|------------|----------|-----------------|----------|
- 問7 2015年に採択された、地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。
(2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 環境保護と経済成長を両立させるため、石炭や石油などの化石燃料の使用を2020年までに全世界で全面的に禁止することとした。 | 2. 先進国にのみ温室効果ガスの削減義務を課し、発展途上国には義務を課さないとした1997年の京都議定書の仕組みを継続した。 | 3. 先進国だけでなく、発展途上国を含むすべての参加国・地域が温室効果ガスの削減目標を作成し、対策に取り組むこととした。 | 4. 二酸化炭素などの温室効果ガスを排出する権利を国同士で売買する仕組みを廃止し、共通の罰則を設けることのみを目的とした。 |
|---|--|--|---|
- 問8 現代社会において、日本を含む多くの国が温室効果ガスの排出を抑えるために再生可能エネルギーへの転換を模索していますが、その普及を妨げている要因として、火力発電などの既存の発電方式との比較から説明したものとして正しいものを選びなさい。
(2019年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 太陽光や風力は、発電時に大量の二酸化炭素を排出するため、気候変動を加速させる懸念がある。 | 2. 地熱や風力などのエネルギー源は、石油などの化石燃料に比べて特定の地域にしか存在しないため、輸入コストがかさむ。 | 3. 再生可能エネルギーは、火力発電に比べて1kWhあたりの発電費用が高いため、経済的な効率性が低い。 | 4. 再生可能エネルギーは、発電施設の維持管理が火力発電よりも容易であるため、関連産業の雇用を奪う恐れがある。 |
|---|--|---|---|
- 問9 持続可能な社会の実現に向けて、資源を有効に活用する「循環型社会」の形成が求められています。この取り組みの基本となる「3R」において、製品の製造段階で資源の使用量を抑えたり、マイバッグを持参してレジ袋を断ったりすることで、ごみそのものを減らす取り組みを何と呼びますか。
(2017年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|------------------------------|--------------------|-----------------|
| 1. リデュース (Reduce) | 2. ゼロ・エミッション (Zero Emission) | 3. リサイクル (Recycle) | 4. リユース (Reuse) |
|-------------------|------------------------------|--------------------|-----------------|
- 問10 発展途上国で生産されたコーヒーやカカオなどの農産物は、国際的な価格変動や不利な取引条件により、生産者が十分な利益を得られず貧困から抜け出せない原因となることがあります。こうした課題を解決するために、消費者の立場から、生産者が生活を維持し自立できるよう、農産物や製品を適正な価格で継続的に買い取る取り組みを何と言いますか。
(2019年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|----------|------------|-------------|
| 1. フェアトレード (公正取引) | 2. バイオマス | 3. モノカルチャー | 4. セーフティネット |
|-------------------|----------|------------|-------------|
- 問11 1997年に制定された、大規模な開発事業を行う際に、その事業が自然環境にどのような影響を及ぼすかを「事前に」調査・予測・評価することを義務づけた法律を選択してください。
(2019年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|----------|-----------------|------------|
| 1. 環境影響評価法 | 2. 環境基本法 | 3. 循環型社会形成推進基本法 | 4. 公害対策基本法 |
|------------|----------|-----------------|------------|
- 問12 日本のエネルギー問題に関する記述として、近年の発電状況を正しく説明しているものはどれですか。
(2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 二酸化炭素の排出量を抑えるため、化石燃料を使用しない水力発電が発電電力量の約7割を占めるようになった。 | 2. 資源の少ない日本では、明治時代から一貫して原子力発電が最も主要な発電方法として利用されている。 | 3. 再生可能エネルギーの急速な普及により、2019年時点では太陽光発電が日本の電力供給の半分以上を支えている。 | 4. 安定した電力供給のために、石炭や天然ガスなどを燃料とする発電方法が、現在も発電電力量の最大を占めている。 |
|--|--|--|---|